



『学芸大学駅周辺地区整備構想』

“素案”がまとまりました。

皆様のご意見・ご感想をお寄せ下さい。

「学芸大学駅周辺地区整備構想」(以下「整備構想」という。)は、「目黒区都市計画マスタープラン」で定めた、地域の実情に即したきめ細かな街づくりを進めていくための構想です。

今後目黒区では、この「整備構想」を皆で共有しながら、地元住民、関係機関、鉄道事業者等と連携・協力して、学芸大学駅周辺地区の“目指す将来の姿”の実現に向けた街づくりを進めることとなります。

この“学大街づくり通信”では、整備構想(素案)の概要についてお知らせします。

なお、素案の詳細は区の総合庁舎の他、住区センター等でご覧頂けます。

策定の経緯

町会・自治会や商店街をはじめとする地域で組織として活動されている方々や、個人参加の方による「地区懇談会」をこれまで9回開催し、ご意見をお聞きしてきました。さらに、平成17年度には、学芸大学駅周辺での街頭アンケートを実施するとともに、地域の団体等との懇談を実施しました。

地区の範囲

「学芸大学駅」及び「碑文谷公園」を中心とする幹線道路((環状七号線(25m)、目黒通り(25m)、駒沢通り(15~20m)、整備が予定されている補助26号線(20m))に囲まれ、一定の生活圏が形成される「居住環境区域」(1))



地区の特徴

学芸大学駅周辺地区は、基盤整備がある程度終了した成熟した市街地です

学芸大学駅の1日の乗降客数は約6万人と多く、駅周辺は多くの人が行き来する場となっています

多様な店舗などが立地する商店街やみどりの多い閑静な住宅地、碑文谷公園など学大ブランドといえる資源があります

交通量の多い4本の主要な道路で囲まれた地区内は、生活に必要な施設が立地し、歩いて暮らせる街の要素がある一方で、地区内への通過交通の流入による歩行者と自動車の交差、自転車と歩行者の交錯、放置自転車による通行の妨げなど、歩行者の安全性が懸念されています

高齢化が進む一方、25歳から40歳までの人口の割合は区の平均より高く、また、若年者の一人暮らしも多くなっています



(多くの人が魅力を感じている碑文谷公園)



(多くの人が賑わう駅前商店街)



(通行の妨げになっている駅前の放置自転車)

街づくりの将来目標

地区の将来像 目指していく10年後の地区の将来像

にぎわう商店街、オアシス碑文谷公園、閑静な住宅地の広がり、生活を大切にする 安心・安全なまち

街づくりの目標 地区の将来像を実現するための目標

安心・安全・快適な歩行者優先の街づくり

自転車と共存できる街づくり

まちの玄関口(駅前空間)が魅力的な街づくり

地域生活を支える商店街が活気づく街づくり

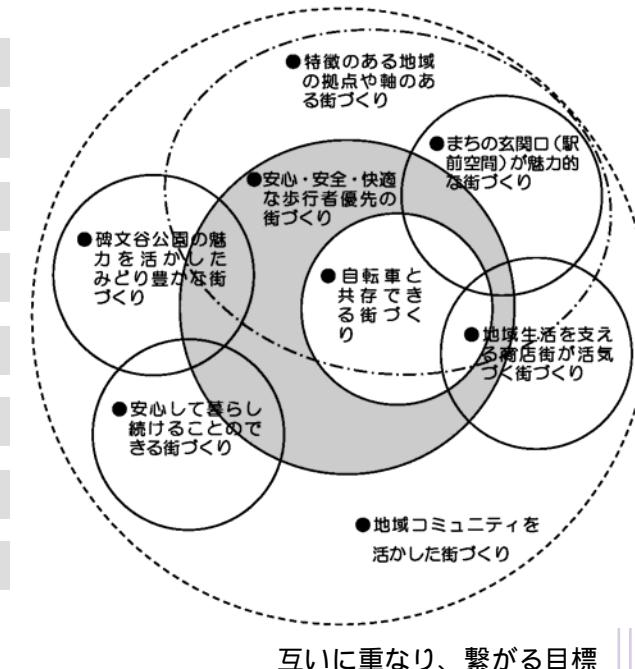
特徴ある地域の拠点や軸のある街づくり

碑文谷公園の魅力を活かしたみどり豊かな街づくり

安心して暮らし続けることのできる街づくり

地域コミュニティを活かした街づくり()

他の目標すべてに関係する目標



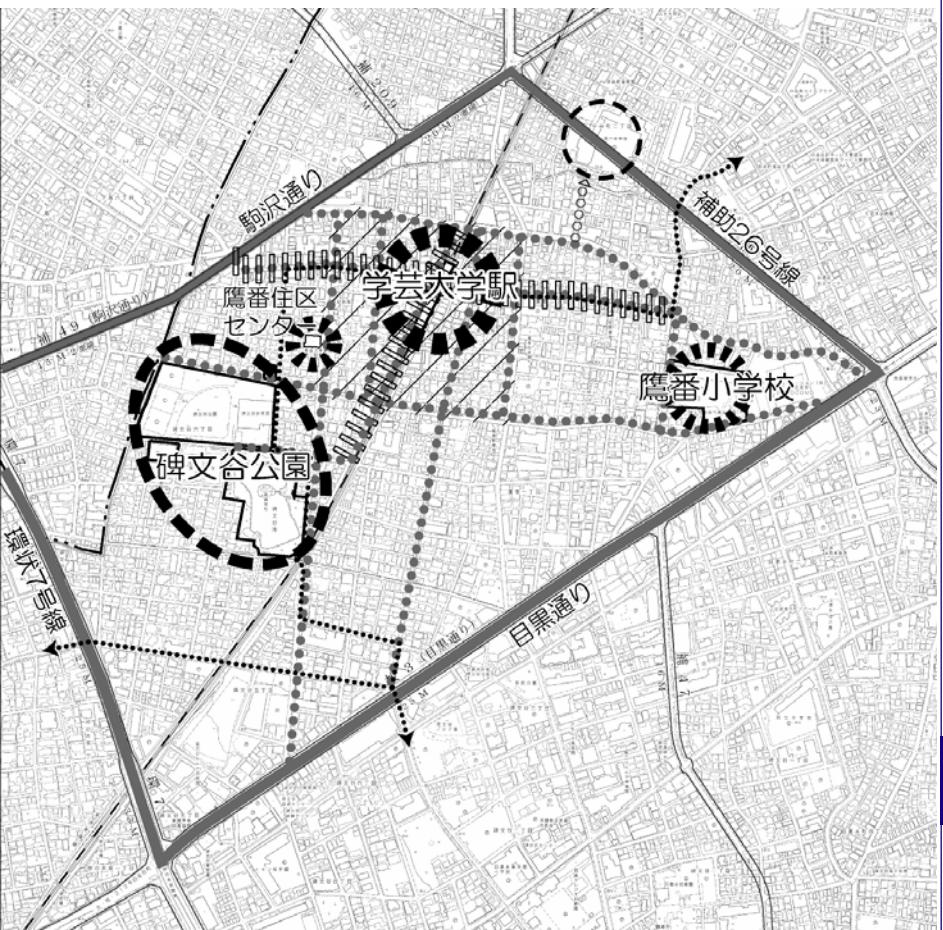
地区の将来構造図

[拠点や軸]

- 交流拠点**
多くの人々が集まり、交通結節機能をはじめ商業・業務機能など、多様な機能が集積する、人々の活動や暮らしを支える場所
- 地域コミュニティ拠点**
住区センターや小学校が立地し、地区住民のコミュニティを支える場所
- みどりの拠点**
近隣住民の憩い、交流、スポーツ機能を担うとともに、都市の潤いや防災拠点となる場所
- 交流軸**
多くの人々が安全・安心に往来できる歩行者ルートと沿道商業・業務機能などが連続する交流空間。駅周辺の回遊の軸となる空間

[道路]

- 主要歩行者ルート**
交流拠点周辺をはじめ、みどり拠点や学校前など歩行者が安全・安心・快適に歩ける主要な歩行者ルート
 - みどりの散歩道**
拠点や近隣の公園などを結ぶ散策を楽しむができる道
 - 主要幹線道路**
主に広域的自動車交通を処理し、都市の骨格を形成する道路（大震災時の避難路）
 - 幹線道路**
主に自動車交通を円滑に処理し、都市の骨格を形成する道路（大震災時の避難路）
- 歩行者優先ゾーン**
まちづくりに資する拠点
歩行者動線



街づくりの方針

概ね 10 年間を目指して段階的に進める街づくりの基本的な指針として、個別の計画立案や具体的な取組みに反映されます。
(詳細は、「学芸大学駅周辺地区整備構想(素案)」をご覧ください。)

1. 特徴ある地域の拠点や軸のある街づくり方針

まちの玄関口が魅力的な街づくり

街のシンボル空間、多くの人々が集まり交流する拠点として、駅前空間が魅力的な街づくりを進めます。

駅前の交流広場の形成

街のシンボル(顔)として美しい景観の形成
交流拠点機能の充実

地域生活を支える商店街が活気づく街づくり

道路と沿道空間が一体となった交流空間で、買い物客やまちを訪れる人などで商店街が賑わい、活気づく街づくりを進めます

個性ある商店街の形成

古き良きものと斬新さとが融合する学芸大学らしい街並みの誘導(交流軸の街並み形成)
地域に根ざした親しみの持てる商店街の形成

碑文谷公園の魅力を活かした

みどり豊かな街づくり

みどりの拠点である碑文谷公園を核に、みどりが繋がり広がる街づくりを進めます

住民との協力による「みどりの拠点」の魅力向上

子どもも高齢者も障害をもつ人も安全に安心して利用できる碑文谷公園づくり
学芸大学駅周辺を取り囲む幹線道路の「みどりの軸」化

2. 安心・安全・快適な歩行者優先の街づくり方針

歩行者優先の街づくり

歩行者にとっての様々なバリアーを排除し、安心・安全・快適な歩行者空間のある街づくりを進めます

歩行者優先ゾーンの形成

駅、碑文谷公園、住区センター周辺など、主要な歩行者ルート上の安全性の向上
安全に歩いて移動できる学芸大学駅周辺地区の形成
学芸大学駅周辺地区の公共交通利用環境の向上

自転車と共存できる街づくり

放置自転車を排除するだけではなく、歩行者と自転車が共存できる街づくりを進めます

駅周辺における自転車駐輪場所の充実
放置自転車対策の強化
自転車利用者のルールづくり

3. 安心して暮らし続けることのできる街づくり方針

4 本の幹線道路に囲まれた「学芸大学駅周辺地区」内は、安心して暮らし続けることのできる街づくりを進めます

良好な住環境のある街づくり

閑静な住宅地の環境を守る
補助 26 号線沿道の街づくりの検討

みどりが豊かで環境に配慮した街づくり

身近なみどりを守り増やす
環境に優しい取組みの推進

安全・安心を確保する街づくり

災害に強く犯罪のない街の形成
鷹番住区センターと鷹番小学校の「地域コミュニティ拠点」化

街づくりの進め方

学芸大学駅周辺地区の街づくりは、住民・既成組織や事業者及び区が、それぞれの役割に応じて段階的に取組むことが必要です。

住民・既成組織や事業者は、できるところから取組みを進め、ルールづくりやまちづくり活動の拡大に努め、区は、これらの取組みを適切に支援します。

区は、区全体の財政状況を踏まえ、住民等との合意形成や東京都をはじめ関係機関等との調整・連携を図りながら段階的に事業を実施することを基本としますが、街づくりの方針に基づき、短期的に事業化が可能なものについては、時機を逸することなく取組みを進めます。

説明会を開催します

日 時：平成 19 年 1 月 12 日(金) 午後 7 時～8 時 30 分
平成 19 年 1 月 13 日(土) 午後 3 時から 4 時 30 分
会 場：鷹番住区センター 第 3・4 会議室 / 参加希望者は、当日会場へお越しください。

素案の閲覧

閲 覧 場 所：総合庁舎本館 1 階区政情報コーナー・6 階都市整備課
地区サービス事務所(東部地区を除く) 鷹番住区センター。五本木住区センター
ホームページ：<http://www.city.meguro.tokyo.jp/> から都市整備課の情報をご覧ください
閲覧期間：平成 19 年 1 月 9 日(火)～1 月 31 日(水)

ご意見提出方法

「学芸大学駅周辺地区整備構想の素案」と明記し、住所、氏名(匿名も可)、電話番号をご記入の上、郵送、FAX、E メールにて都市整備課までお寄せください。(1 月 31 日必着)
郵送先：〒153-8573 東京都目黒区上目黒 2 丁目 19 番 15 号
目黒区都市整備部都市整備課(担当：峯島・金子)
FAX：03-5722-9338、メール：r-gakudai@city.meguro.tokyo.jp
締め切り：平成 19 年 1 月 31 日(水)必着

お問い合わせ先：目黒区都市整備部都市整備課街づくり調整係
電話 5722-9714(担当：峯島・金子)